

どんな立派な政策も、どんな立派な計画も、わたしたちの生活という「実情」に接続していなければ、そのまちづくりは、絵に描いた餅になってしまいます。より良いくらしをつくるため、みなさんの「実情」を教えてください。

あなたの気づきを教えてくださいませんか？



YouTube

『江別のいまがわかるTV』と題して、毎月第1土曜日の21時から配信！リアルタイムで入るコメントにお答えしながら、議論を進めていきます。その時々旬な話題をお届けしますので、ぜひ参加してみてください。



アンケートフォーム

江別市政についての質問をまとめました。ご協力のほど、よろしくお願いします。



LINE公式アカウント

日々の活動報告や市政課題の解決策などをお知らせします。1対1のやりとりができますので、いろんな意見や質問をお寄せください。

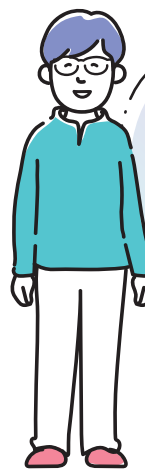
あなたの気づきがくらしをつくる。



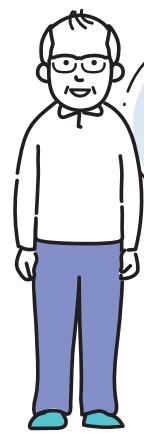
公園の周りの側溝に蓋がなくて子どもたちが危ないわ



ぜんぶ中止で夏休みの作文に書くことがないよ



国道に出る手前の道路が陥没していて車のタイヤがパンクしそう



町外の人でゴミステーションにごみを捨てていく人がおるなあ



おとなりさんの雪かきがされてなくて心配だわ



[詳しい政策はこちら]

お久しぶりです、堀直人です

3年前、市長選挙に負けて政治の仕事から離れましたが、いろんな現場で得た経験をもとに、あたらしい視点で政策をまとめました。江別市の暮らしを豊かにするために、これからも働いていきます。



くらしが いちばん

HORI REPORT #05

仕事をさせてくださった みなさんのお役に立つために

2015年、人口減少時代に対応できない江別市に対する危機感から政治活動を始め、みなさんのお力で、江別市議会議員選挙に当選させていただきました。

政治家の家系でもなく、学歴が高いわけでもなく、お金があるわけでもないのに、みなさんは、わたしを応援してくださり、政治の仕事を託してくださいました。

そして、その負託に応えるべく、懸命に市議会議員として仕事をしていくうちに、わたしは、江別市の切迫した経営状況を知る事となるのです。

2019年、江別市の経営再建を訴え、江別市長選挙に立候補しました。

しかし、みなさんが託してくださった想いをかたちにする結果は残せませんでした。

それから今日まで、どうやって想いを託していただいた方々にご恩を返すか。

どうすれば、みなさんの暮らしを少しでも良くすることができるだろうかを考えていました。

その3年間、ずっと考え抜いた政策を活動報告書にまとめました。

将来はバラ色ではないですが、それでも支えあって豊かに暮らすことはできるのです。

そのために、これからも、わたしは働いていきます。

3年間のできごと

2019.7 - 2022.3

— 2019.7 民間公益活動を支援するNPOに入職

落選後の3年間は、支援する人(NPOなど民間の公益活動者)を支援するNPOに入職し、社会の課題を解決するための人材育成プログラムを立案することや、住民さん同士で「支えあい助けあう地域」をつくるコーディネーターの養成研修を運営する仕事に従事しました。



— 2021.12 江別青年会議所を卒業

2017年に入会してから、ともに社会貢献活動をさせていただいた江別青年会議所を、2021年をもって卒業しました。プロとして本業を持ちながらも、強い情熱で「ふるさと江別を良いまちにしよう」と行動する同世代と同じ時間を過ごせたことは、大きな財産となりました。



— 2020.5 社会課題解決拠点や生活困窮者支援団体を設立

商店を改装してゲストハウス(共有リビングなど交流機能を持つ宿泊所)を開業し、住民と旅人の関係構築に取り組みながら、コロナ禍で家を失った方への居住支援や自立支援、生活困窮者への食糧支援などの活動をし、翌年4月に有志で支援団体を設立しました。



— 2022.1 江別市消防団から5年勤続表彰

2017年に入団し、豊幌分団に所属しております。運動も機械も音痴なので、なかなか上達しないのですが、「もやい結び」はできるようになってきました。地域を災害から守る活動に携わらせていただく機会に恵まれたことへ感謝しながら、今後も精進していきます。



— 2021.10 非常勤講師として大学の講義を担当

2021年の後期から「ビジネスデザイン」という講義を受け持ち、いままで培ったデザイン・マーケティング・事業構想・政策立案の技術を伝えながら、自らが大学生が企画発表する機会を通して、分野横断的に「社会の課題を価値に変える方法」を教えました。



— 2022.3 世田谷区長を招いてシンポジウムを開催

2017年から運営委員を務める北海道自治体学会で、世田谷区の保坂展人区長をお招きしたシンポジウムを企画し、部会長として運営に携わりました。前日の江別市世田谷地区への視察に同行し、当日は「福祉からはじまる地域づくり」分科会も担当しました。



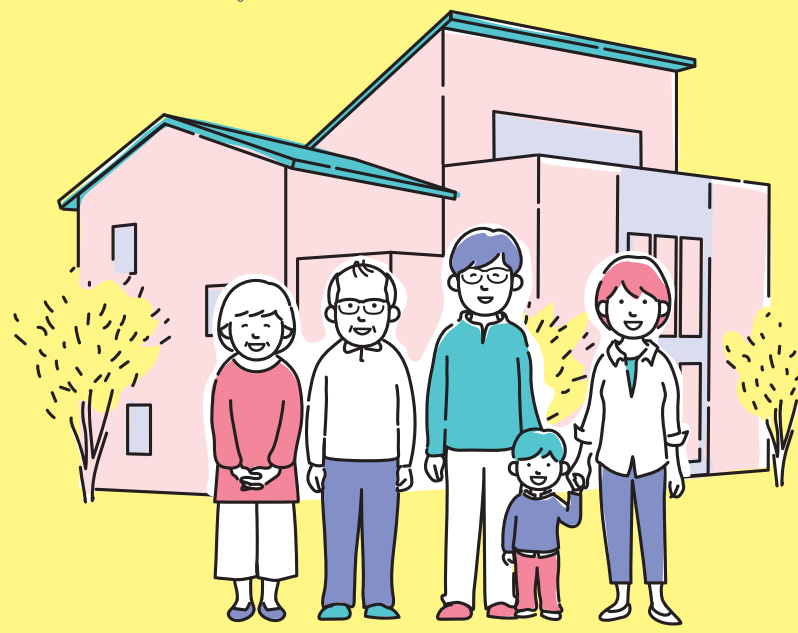
堀直人が考える まちづくり三原則

- 1. 暮らしを最優先に考える
- 2. 課題を価値に変える
- 3. 成熟した未来をつくる

堀直人が考える 9つの重点政策

- 1. ご近所の暮らしづくりを育てる
- 2. 健やかで自分らしい日常を支える
- 3. 安心して生活できる基盤を守る
- 4. 未来のまちを市役所の建替で築く
- 5. 鳥の目を見た地域医療を組み立てる
- 6. 困りごと解決に空き家を活かす
- 7. 地方創生で生活を豊かにする
- 8. こども・若者が希望を抱く環境を整える
- 9. 親しみやすく頼りになる市政をつくる

人口減少超高齢時代。その環境下にあっても、豊かな生活を続けていくには、どんなまちである必要があるか。そう考えた末に行き着いた将来像が、みんなで支えあい助けあう『ケアシティえべつ』というものでした。心から「このまちに住んでよかった」そう、思える暮らしづくりをみなさんと進めていけたらという思いです。ぜひ、お読みいただけると幸いです。



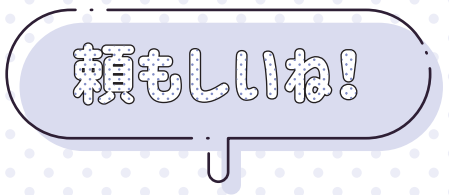
江別の「はなまる生活」を一緒にはじめませんか？



1. ご近所の暮らしづくりを育てる
きめ細やかな「わたしたちの生活にフィットした暮らしづくり」を進めるためには、市全体／中学校区／小学校区／自治会の4層構造による「福祉からはじまる地域づくり」が処方箋であり、それを教育・防災などの他分野へ広げていくことで、「本当のまちづくり」が育まれます。最初の第一手としては、小学校区に「地域再生拠点」の設置と「暮らしづくり推進員」の配置、中学校区に「地域包括支援センター」の増設と「地域支えあい推進員」の増員が有効です。



2. 健やかで自分らしい日常を支える
すべての人が「かけがえない個人として尊重される社会」を複雑化した現代で実現するため、従来型の福祉政策からの転換が急務です。深刻になってからの事後対応ではなく、事前対応による「予防型福祉」や、高齢・障害・児童などの属性ごとの支援ではなく、困難が重なりあう相談者ごとに対応できる「横断的体制」が求められます。同時に、地域社会の「支援者と受益者の役割が固定しない」強みを活かし、支えあい健康になる「お互いさまの地域づくり」が重要です。



3. 安心して生活できる基盤を守る
厳しい財政状況にあっても、わたしたちの生活を保つためには、固定概念にとられない「除排雪」改革、身近で使いやすい「公共交通網と移動手段」の確保、実際の災害を想定した地区ごとの行動手順づくり等の実効的な「防災」対策、地域コミュニティの持続に関わる「自治会」支援など、解決すべき課題が山積みです。加えて、人口減少超高齢時代という長期的な流れを見据えて、住環境の維持とまちづくりの実業を担う公益法人の必要性が高まります。

楽しみだね!



4. 未来のまちを市役所の建替で築く

老朽化した市役所本庁舎は、市民と職員の安全を守り、能率的な行政サービスを提供するには、限界が近づいていますが、建替の財源見通しは立っておりません。従来方式にこだわらず、PFI〔★1〕方式を導入し、跡地利用も一体的に考える「まちづくりの発想」が不可欠であり、地域の課題を解決する「未来志向の計画」が求められます。加えて、利便性の高い「駅前窓口」を設けるため、JRと連携して「鉄道高架の活用」を進めることも重要なポイントです。

安心だね!



5. 鳥の目を見た地域医療を組み立てる

江別市立病院の経営問題も重要ですが、長期的・俯瞰的に見て「江別の地域医療」をどう構築するかという全体最適の視点が不可欠であり、公立病院と民間病院の緊密な連携が最重要課題です。民間病院から紹介された患者を、治療後に再紹介するという体制づくりこそ、市立病院の経営問題を解決する導きの糸になります。さらに、医療・介護・予防・生活支援の連携による「生活の質」に着目した地域医療を実現するためには、訪問医療の推進が必須です。

なるほどね!



6. 困りごと解決に空き家を活かす

優良な住宅地を持つ江別市にとって、空き家の価値を高めて活かすことは、極めて重要なまちづくり施策です。空き家対策は、3段階（流通・利活用・除却）で促しますが、行政が直接的に空き家を買集め、不動産事業者と連携し市場化するなどの「流通段階の対策」と、住民の生活課題解決を奨励する空き家の取得改装助成などの「利活用段階の対策」により、重負担の除却や行政代執行〔★2〕に至らないようにする「予防型空き家対策」の発想が求められます。

うれしいね!



7. 地方創生で生活を豊かにする

地域経済は、新しいものを持ってきたり、よその真似事をして活性化しません。それよりも、いまあるものを活かすことが先決です。たとえば、江別市には、道の駅はありませんが、多くの農産物直売所があります。これらを一体的にブランド化することで「まちまるごと道の駅」に見立てることができます。イベント型活性化施策から脱却し、しっかりと「事業者にお金が落ちる」産業振興と、市の歳入につながり「市民生活の質を向上させる」観光戦略があってこそ地方創生です。

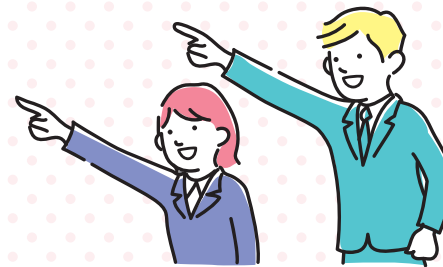
わくわくするね!



8. 子ども・若者が希望を抱く環境を整える

子どもが生まれたとき、その誕生をみんなで祝う地域をつくり、「育ち学ぶ土壌」を養うこと。子どもたちが先の見えない時代を「生き抜く力」を獲得するため、独自の地域教育を築くこと。社会と向きあいひらかれていく若者支援の確立するため、社会の都合を強要するのではなく、過保護に隔離するのでもない「出会いと旅立ち」を創造すること。そして、子どもたちが夢を持って成長できる環境をつくるためには、きめ細やかな家庭への支援と、教育現場への支援を欠くことはできません。

明日があるね!



9. 親しみやすく頼りになる市政をつくる

心から「住んでよかった」と思える江別市を整えていくには、市役所の能力向上が不可欠です。市職員の人材育成を積極的に進めることにより、便利でスピーディな市役所、1円もムダにしない市役所、市民の声を具体的にかたちにできる市役所が、いまこそ求められています。そして、すべての人が豊かになれる機会が等しく存在する江別市をつくるために、「一部の人が得をする政治」ではなく、「全員に公平でひらかれた政治」を全力で実現していきます。